

平成22年度 修了式 式辞

3月11日、1000年に一度という東北・関東大震災。私たちは、あまりにも多くのものを失いました。街ごと津波にのみ込まれたり、多くの命や財産が一瞬のうちに失われました。大自然の力の前で人間がいかにも無力であるか？ 文明がいかにも危ういものなのか？ いやというほど見せつけられました。

しかし、この震災から得たものもあったのではないのでしょうか？ 一人一人は無力でも力を合わせ、震災の被害のどん底から這い上がっていかうとする人々の力強さ、被災しながらも優しさやいたわりの気持ちを忘れず、秩序正しく行動する日本人に、国内はもとより世界中から応援と賞賛の声が寄せられました。すべてを失いながらも、命があったことに感謝し、「一からやり直します。」と歯を食いしばり、テレビの画面の中からその覚悟を涙ながらに訴えていました。

私たちは忘れてはなりません。大切なのは家族。大切なのは命。大切なのはせい一杯生きること。大自然から見ればちっぽけな一人一人の人間。

それなのに、つまらないことで、もめたり、いじめたり、意地悪しているなんて、折角頂いている命を、背一杯燃やしているとはいえません。友達や何かの縁で一緒の学校で生活している仲間。みんなで力を合わせて、この震災で理不尽にも命を亡くしてしまった方のためにも、やさしく強く生きていきましょう。

さて、感動の卒業式も遠い昔のことのように感じられますが、皆さんは、卒業生の姿を見てどのように感じましたか？ 卒業生の流した涙。それは精一杯生きた証なのです。

2年生のみなさんは、1年後の自分の姿をイメージして、波崎四中の最高学年としてのプライドを持って、有意義な生活を送ってください。

何度も言っていますが、「人間その気になれば、いつでも変わる。」その気になった人が勝ちです。仲間と力を合わせて勉強に行事に部活動に取り組んでください。

1年生も随分中学校での頑張り方と楽しみ方上手になってきました。4月からは、中堅学年として、新入生をお世話し、波崎四中の「礼儀正しくさわやか」な校風を盛り上げていってください。以上お願いしまして修了式の式辞とします。

平成23年3月23日

波崎第四中学校 校長 立野健二